

# さわがせ

号数 第 3 4 9 号  
発行日 令和 7 年 5 月 11 日  
発行所 金光教 韮 教会  
〒 550-0011  
大阪市西区阿波座 2-2-10  
TEL&FAX 06(6541) 6313  
mail: utubo1905@gmail.com



勧学祭の後、雨天のため 2 階集会室でガーデンパーティーを開催 (4 月 13 日)

## 神と人との間に

教会長 鍵山 公 生

教主金光様の御取り次ぎをいただき、令和 7 年度、金光教 韮 教会の天地金乃神大祭をお迎えさせていただきましたことは、真にありがたいこととございます。

天地の神様は、人間を始め、動物、植物、鉱物など一切のものをこの世にお創りくださいました。その中には人間にとって不必要なものはないということを感じます。

そこで人間の体のことで考えますと、肉体は親から受け継ぎ、その上一人ひとりに神様の魂を分けていただいて生まれてきました。

金光様は「人間は神の氏子」と仰せられ、言い換えれば「人間はうちの子。即ち…神の子供」であると仰せられ、この天地の大いなるお働きのお世話になるだけで、ただ食って、寝て、便をして、自分のしたいことだけして楽しみ、この世を去っ



ていくことが神様の願いとは思えません。それでは私たちがこの世に生まれ、この世でどのように育つことが神様の願われることなのでしょうか。

それはこの世で心を磨き、生きながらにして神になれよということです。とは言っても恐れ多くて神様そのものになれるとはどうてい思えません。しかし神様の心に近い人になることができるのではないかと思うのです。そしてこの世で神様の御心を知らず、無礼ばかりして難儀している人が多くおり、その人々に神様の御心を伝え、心から幸せになるように導いてやってほしいと願われているのです。

教祖の居られた頃には、普請、作事などあらゆる行事をするのに、土地も、材木も神様の御物であるのに、自分の物と考えて作事をし、そこで祟りさわりなど災難に合わないために方角、日柄をみてもらうことが善きことだと考え、天地の神様にお願ひもせず、我が勝手にしてきたことが、却って神様のご無礼になり難儀をしていたのです。

我々は何をするにも、一つひとつ神様にお願ひさせていただいて、神様のお守りをいただき、その結果を神様にお届けし、お礼することを忘れないように教えられました。

私たち金光様の信心をさせていただく者として、天地のお働きは勿論のこと、ご先祖様をはじめ、親、兄弟姉妹、その他、世の人々のお世話になってきたことに気づかせて頂き、そのことに感謝しつつ、これからも天地の全てのものと共に幸せな生活を営めるようにと願われているのです。

ともすると人間は我欲に陥り安く、その結果身を崩してしまいます。そうならないために何事にも感謝の心を持ち、全てに御礼返しをさせていただくことです。それがこの世に生まれてきた我々の勤めでありましょう。

### 天地のものは流転する

人間が生まれ、母乳を始め、天地の神様のお恵みによって育てられた食物をい

## 春の合同墓前祭

(3月30日)

春の合同墓前祭が、瓜破霊園において執り行われました。



ただき、生きるために働きます。そして命の長短はあっても、それぞれに神様の決められた寿命を全うして亡くなっていきます。

人間を始め動物の肉体や植物を放置すると腐食し、また他の生物の餌となるものもあり、それを土に埋めれば微生物によって植物の肥料となって吸収されていきます。このように小動物や微生物の働きにより流転されるのも天地の神様のお働きです。私たちににとって害虫と言われるものは、この世から消失すればいいと思う生物でも、神様にとって必要欠くべからざるものとして、この世に生かされているのでしょう。

教祖様は蚊に刺されても、むげに殺さず、手でふり払うようにして凌いでおられたと伝えられていますが、これも私たちが蚊に刺されて、痛みかゆみから逃れようとするだけでなく、全ての虫たちを死滅させてしまわなくてもよいということでしょう。

神様は天地の間にある全てのものを生かし、育てられますが、例えば蠅や蚊などは私たちには迷惑な昆虫ですが、他の鳥や小動物の餌になるなど、広い目で見れば、この世に不要なものはお創りになっていないのです。

それと同じように、私たちが植えてもいないのに生えてくる草木であっても、神様はあらゆる植物を育てられ、そのうち人間が必要とするもののみ大切にして、その他は雑草、雑木と考えるのは我々の身勝手な受け方ということになります。

### 天地の働きを汲み取る

その昔、高德な先生といわれるお道の先生が、弟子たちと共に梅林を見物に行かれ、その枝に吊された短冊に書かれた詩句を見られて、「ここにある短冊には花の美しさを愛でているものが多いが、木の根っこの尊さを称えているものがない」と仰せられたということでした。同じ花を見ても、木の根っこの心まで受け取ることができる人は、天地の働きを汲み取ることができる信仰心の深い人であると感じます。



### 神も助かり氏子も立ちゆき

天地の神様は農業を営んでいた教祖様に、「天地の神様のありがたいことを知らず、難儀が起こる原因は方角、日柄をみることによって人々の心を惑わせ、却って神様のご無礼になってきたと教えられ、天地の神様の御心を伝えてくれ」と仰せになり、神と人との間に立たれ、取次いで助けてやってくれとお頼みになったのです。

この金光教の神様は、教祖様が神様からお頼みを受けて開かれたお道でありま

す。金光様のお取次ぎによって人々が助かると同時に神様が助かるお道です。

子供が生まれ、健やかに育つことを親は願い、それと同時に子供も無事成長してきたことを感謝し、親も子も同時に成長できたことを喜びます。

世の人々は、神様は人を助ける役柄で、人は助けていただく関係であると思っ  
ていますが、金光教の道では、一方的な考えではなく、神も助かり、氏子も立ち  
ゆく御取次ぎの道と言われ、神も助かると同時に、人も立ちゆく双方の助かる道、  
いわゆるあいよかけよで立ちゆくのであります。

現在地球上では「我が国は世界一だ」と考え、自国の繁栄  
のことばかり考えている指導者が居ますが、それは決して地  
球上の人々が幸せになる道ではありません。金光様の道では  
世界真の平和を願っています。世界の人々が仲良く幸せにな  
れる政治、神も助かり、人も立ちゆく世界を築いていく世に  
なるようお願いさせていただきます。



月例霊祭日に、祥月命日の御霊様もお呼び出しして  
ご慰霊させていただきます。  
ご都合お繰り合わせをただかれ、ご参拝下さい。  
(5月24日・6月22日ともに午前10時30分より)

5月11日(日) 午前10時30分より

# 天地金乃神大祭奉行

祭典後説教、講題：「日に日に新たに」

講師：寝屋川教会長 安井 光一 先生

## 令和7年5月

- 16日(金) 信徒共励会 午前10時  
17日(土) 御本部月参拝 午前6時出発  
18日(日) 堺大浜教会大祭 午後2時  
24日(土) 月例霊祭執行 午前10時30分



## 6月

- 1日(日) 月例祭執行 午前10時30分  
7日(土) 月例祭執行 午前10時30分  
8日(日) 教団独立記念祭 御本部参拝  
15日(日) うりわり墓参 午前7時  
20日(金) 信徒共励会 午前10時  
22日(日) 月例霊祭並びに

夏越感謝祭(人形行事)執行  
午前10時30分

## 7月

- 1日(火) 月例祭執行 午前10時30分

祭典はすべて

午前10時30分より

執り行われます。

さわかぜは、韃教会ホームページからもお読みいただけます。



金光教うつほ教会

検索

<https://utubo.konko.info/>

## ご本部 天地金乃神大祭に参拝

4月6日晴天の中、ご本部天地金乃神大祭に参拝させていただきました。



## 勸学祭 4月13日

子どもたちがこれまで、無事成長させていただいたことの御礼と、世のお役に立つ人にならせていただけますよう祈念させていただく祭典、「勸学祭」が仕えられました。祭典後、直会として学用品を頂きました。また今年は雨天のためガーデンパーティーは2階集会室にて開催され、準備された焼きそば・焼き鳥・餃子などをいただきました。

